

1 中心市街地の活性化について

(1) 中心市街地活性化基本計画の検証

磐田駅周辺まちづくり事業の中心市街地活性化基本計画による平成元年から27年度までのハード事業(10事業で総事業費約350億円)の個々の事業と全体の事業について、実施状況と事業費、現状の評価、成果、課題・問題点、今後の予定は。

ソフト事業の個々の事業と全体の事業について、実施状況と事業費、現状の評価、成果、課題・問題点、今後の予定は。

ハード事業、ソフト事業を合わせた中心市街地活性化基本計画に沿った総事業について、総合的な評価、成果、課題・問題点、継続した施策または新たな施策への反映は。

中心市街地活性化基本計画に沿った実施事業は、しっかり検証し、次世代に引き継ぎ反映させる必要があると思うが、見える化も含めた、検証、引き継ぎ、反映の仕方、新たな施策への展開、取りまとめ方法と公表は。

(2) コンパクトシティと公共施設

市民文化会館建替えは、コンパクトシティの考え方を十分配慮することが肝要だと思うが、市民文化会館建設検討委員会で審議中の建設候補地選定について、地方創生、コンパクトシティの観点からの対応についての見解は。あわせて市民文化会館への来客数は。

市役所本庁舎は、昭和47年3月に完成し、44年が経過しようとしている。本庁舎の老朽化や修繕・補強の現状、大規模修繕か建替えか、事業費とコンパクトシティを踏まえた今後の計画と方向性、課題・問題点は。あわせて市役所本庁舎への来庁者数は。

学府一体校構想やコンパクトシティが叫ばれている中、策定中の磐田市公共施設等総合管理計画の概要、現在の進捗状況、今後のスケジュールは。

2 情報化の推進について

(1) 交流センターの情報化

交流センターの情報化の環境整備は、ステップを踏んだ取り組みで、例えば、“ここ3年程度で 現状把握（調査、研究） 試行実施（モデルセンターで試行） 情報化の環境整備（各交流センターに展開）を実施し、将来的には 本庁、支所の補完機能（双方向でヤリトリ）の役割を目指す”の順番で展開したらどうかと考えるが、交流センターの情報化の現状、環境の整備の考え方、今後の展開は。

23交流センターの情報化の整備が完了し、市役所の補完機能を果たすことになれば、地域住民も身近でサービスが享受でき恩恵を受ける。これを“(仮称)磐田モデル”と呼んだ場合、交流センターが、市役所の補完機能を果たす(仮称)磐田モデルについての見解は。

(2) 情報化を活用した施策の展開

平成25年2月に東名以北の光ファイバー網が整備され、市内全域で光ブロードバンドサービスが可能となった。市では、積極的に動画での情報発信をしたい旨の説明もあった。情報発信の考え方、現状と今後の計画は。

3 磐田市の諸課題について

(1) 150号バイパスの建設促進

国道150号バイパスは、第2遠州の園付近まで完成しているが、それ以東の工事の進展が見られない。工事の現状、市の対応と今後の見通し、課題・問題点は。

(2) 工業団地の計画と企業誘致

これまでの経緯を踏まえた次期工業団地の検討・調査等の現状と進捗状況、変更や延伸等を含めた計画の見直しや開発計画スケジュール、課題・問題点は。

新たな企業誘致の取り組みについて、現在の状況、市の戦略と他市との差別化、成果や課題・問題点は。

(3) 沿岸地域の産業の活性化

東日本大震災以降、沿岸地域の産業の活性化が叫ばれている。懸案の防潮堤整備工事や活性化事業も始まったが、未だ明るい兆しが見えない。沿岸地域の産業活性化の考え方、現状と計画、今後の進め方は。

がんばる企業応援団の取り組み状況、成果、課題・問題点、今後の予定は。

(4) 防潮堤の整備と竜洋海洋公園の整備

防潮堤整備工事の施工方法等が変更になったと聞く。防災林箇所の中遠農林事務所との共同施工区間と市の単独区間それぞれの植樹を含めた新たな施工方法、施工順序、施工費用、植樹の際のボランティアの協力、関係自治会への説明などは。

中断中の竜洋海洋公園の整備再開について、整備の概要、今後の見通し、掛塚湊跡地の取り扱いは。

(5) 給食と教育委員会の事務の補助執行

特定の食物でアレルギー症状を起こす子どもが増加傾向にある。学校給食、園給食では、除去食や代替食で対応しているが、幼稚園の園児に対するアレルギー対応が一部遅れていると思われる。現状と今後の対応は。

教育委員会の事務の補助執行について、“PDCAサイクル”が回っているのか、補助執行後の検証、現状の評価、課題・問題点、今後の方向性は。